

第9節 環境教育・環境学習の推進 — 学びは一生の宝物 —

1. 環境教育・環境学習の現状

かけがえのない自然環境を守り後世に引き継いでいくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、できるだけ環境に負荷をかけない生活をするなど、環境に配慮した意識・行動をとることが大切です。

こうした生活の様式や習慣などを幼い頃から意識付けすることはとても重要と考え、自然体験学習や環境講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

そこで、環境学習や環境活動の拠点である環境学習室「エコひろば」では、環境啓発の講座や小・中学校への環境教育を支援する事業、環境に係る情報提供など、様々な事業を展開しています。

2. 環境教育・環境学習の取り組み

(1) 環境学習の推進

ア. 環境の拠点

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりとなるよう、また、環境保全活動を行っている団体などが活動を展開するための拠点として、17年1月に環境学習室「エコひろば」を開設しました。

一年を通して、環境に関する講座や教室などを開催し、入場者は22年度と比べて約2,400名増加し、延べ19,678名が入場されました。

なお、環境に関する図書や物品の貸し出しなども行っています。



「エコひろば」のエコロジークッキング

イ. 人材育成と環境指標

(ア) 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用



環境フェスティバルでの
環境診断

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書である身近な環境診断「ちえっくどう」を用いて環境診断を行う際に指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、41名が活躍しています。

この「ちえっくどう」は、22年度には環境診断士の協力を得て現状に即したものに全面改訂を行いました。

また、環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動や小学校を対象に実施している環境教育支援等で活躍しているほか、環境フェスティバルのブースにおいて、218名の方を対象に身近な環境診断（「ちえっくどう」簡易版）を実施し、その結果からエコに関するアドバイスも行いました。

(イ) 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成しています。現在、第1期から6期のメンバーが、各地区の環境市民会議に分かれてその地区的特色を生かした様々な環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

(2) 環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、親子で1日道の駅周辺を歩いて収穫体験ができる農業ウォークを7月30日に行い、9組18名が参加しました。

林業体験では、12月3日に行った間伐（雨で中止）と植物の根を土で包み表面にこけを巻きつけたこけ玉作りに18名が参加しました。

また、町会・自治会、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関及び本市で組織する『八王子浅川子どもの水辺協議会』では、「ガサガサ探検隊」や「水辺のかんきょう教室」「野鳥観察と浅川清掃」などを開催し741名の参加がありました。



自然体験講座で
滝山城跡の歴史探訪



そのほか、身近な自然環境を体験してもらおうと、市と環境市民会議が協働で「自然体験講座」を計10回実施し、延べ396名が参加しました。また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」の環境関連の講座では、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」、「サルとの知恵くらべ八王子に生息する動物たち」など8講座を開講して環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図りました。

出前講座『自然は友だち』

■環境分野の主な出前講座

講 座 名	内 容	参 加 人 数
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別、発生抑制の説明及びDVD上映	2,826人
自然は友だち	本市のみどりや生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	212人
サルとの知恵くらべ 八王子に生息する動物たち	八王子の小動物の生態及びサルの生活	61人

また、「はちおうじの環境をみる・きく・考える」をメインテーマに産官学民の協働・連携のもと、6月4日に「2011 八王子環境フェスティバル」を八王子駅北口西放射線ユーロード及び南口とちの木デッキ上にて開催し、延べ45,000名の来場者でにぎわいました。



2011八王子環境フェスティバル

(3) 環境教育の充実

ア. 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

子どもたちが身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、自然を大切にする心を育むことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標として、「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を平成22年に策定し、学校において環境教育を推進しています。

この目標を実現させるための取り組みとして、20年度から学校ごとの環境教育全体計画及び年間指導計画に基づいた環境教育の実践を行っています。また、夏季教員向け研修（パワーアップ研修）で、環境教育をテーマにした研修会を実施するとともに、環境教育の小中一貫教育指導資料を活用した研究授業を小・中学校各1回ずつ公開して、教員の環境教育の指導力の向上を図りました。

イ. 環境教育副読本の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心を持ち、環境問題を解決する行動력을もった人の育成」を実現するため『八王子市のかんきょう』を作成しています。「みどり」、「資源」、「水」、「大気」の4つの分野にわけ、地域の環境について児童が自ら調査し、まとめていけるような副読本で、毎年市立の小学4年生に配布しています。



環境教育副読本

また、ごみ減量やリサイクルの意識を育てるために、ごみ処理方法などを記載した『きれいなまち八王子』、川への関心を高めるために『川と友だちになるノート』をそれぞれ作成し、毎年市立の小学4年生に配布しています。

(4) 地域との連携による環境教育

「エコひろば」では、市立の小・中学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習において、環境教育支援事業を行っています。これは、地域特性を活かして活動している知識・経験豊かな環境市民会議をはじめ、環境学習リーダー及び環境診断士を学校に派遣し支援することにより地域の人材を活かした環境教育の充実を図っています。

23年度は、9校で実施し、延べ313名が支援を行いました。



浅川での環境教育支援事業

(5) 環境情報の提供

ア. 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

イ. 「環境報告書」の発行

市内にある 6ヶ所の施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取り組み内容及び実績を公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野下水処理場
2	戸吹清掃工場	5	戸吹不燃物処理センター
3	北野衛生処理センター	6	プラスチック資源化センター

ウ. ホームページによる環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

エ. 環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ (<http://www.ecohiroba.jp/>) を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など、環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

3. 評価

ここでは、「教育・学習」の分野についての評価結果を掲載しています。

(評価の方法については 12 ページを参照)

評価 : ★★ ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

東日本大震災の影響により、春から初夏にかけての講座が一部中止又は延期となったにもかかわらず、22年度を上回る開催実績が上げられたことは大きな成果である。

また、北野環境学習拠点では、施設見学者はもとより、ワーキンググループでの活動による講座等の参加者も多数得られたことから、身近な環境を一人でも多くの市民に親しんでいただくため、着実に事業展開を図ること。また、環境マネジメントシステム職員研修や教員に対するパワーアップ研修は、職員にとって環境に関する重要な研修であることから、引き続き職員全員を対象に実施すること。なお、環境市民会議の活動の活性化及び会員の拡充がなかなか図れないことから、支援の強化に努めていくこと。

<環境推進会議での相互評価>

教育・学習の分野については、入場者数、参加者数、受講者数など、着実に増加していることから評価できる。また、現在進めている北野環境学習拠点づくりを確立するためにも、広く市民に広報宣伝するとともに、引き続き事業展開に努めること。

次に、市役所も事業者の一つであることから、環境マネジメントシステム L A S - E について、継続して実施すること。なお、環境市民会議の活動の活性化及び会員の拡充を図るためにも、市は各地区の環境市民会議の支援に努めていただきたい。